

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3090100870		
法人名	社会福祉法人 公風会		
事業所名(ユニット名)	フローレンス三寿 フラワーユニット		
所在地	和歌山市 向 180-1		
自己評価作成日	令和4年4月20日	評価結果市町村受理日	令和4年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	令和4年5月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境作りを行い、入居者様個人の尊重と有する力に応じ、自立した日常生活を送れるように努めている。また、感染対策を行い、毎月のイベントと定期的なクラブ活動を行う事で入居者様とともに楽しく、安心して暮らせる空間作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念は「その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができる」と謳っており、利用者は生活の各場面でそれぞれの能力を発揮している。さらには併設する事業所の利用者との合同のクラブ活動では、日常生活で役立つ「ものづくり」にも挑戦している。健康管理や医療面では、かかりつけ医・看護師との密な連携により、適切な対応がなされており、利用者及び家族等にとって安心のできる体制にある。地域の自治会長とは常に連絡を取り合っており、コロナ禍の事態の推移を見定めながら、地域との交流を再開するつもりである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの見やすい場所に掲示し、互いに理念を共有し、実践につなげていける努力をしている。	理念は開設時に職員間で検討し策定した。リビング等に掲示することで利用者・家族等の理解も得られる。職員は日々理念を確認・銘記し、共有しながら実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議などで地区の自治会長さんや例年は初詣等で地域の神社に出かけている。現状では難しいが、コロナが落ちつけば、神社で行われる夏祭りへの参加も検討したい。	自治会の準会員(会員は個人に限定されている)であり、自治会長とは頻繁に連絡を取り合っている。以前のように自治会の行事への参加や地域の小学生の訪問等を受けての交流が再開できるよう事態の好転を待つ状況にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な取り組みを考えている現状で、将来的には地域に向けて発信していきたいと考えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度必ず開催し、自治会長さんやご本人、家族、包括の職員の方と意見交換を行っている。現状は、郵送でのやり取りを行い、互いの意見交換を行っている。	2月に1回の運営推進会議開催時には利用者家族等・自治会長・地域包括支援センター職員等の出席を得て、事業所の活動内容や外部評価結果等を報告し、話し合いを行っており、出された意見は運営に活かしているが、現在は文書によるやり取りとなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	外部評価及び運営推進会議開催状況報告書の提出など、必要な関係性を継続し、コロナ禍での疑問に思うことなどを聞くようにしている。	地域包括支援センター及び市の担当者とは日頃から電話等で密に連絡を取り、事業所の利用状況やサービス向上への取り組みの現状や課題を積極的に伝え助言を得る等双方向の協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針を整備し、身体拘束をしない事を前提にケアに取り組んでいる。年間での勉強会と入職時に研修を行っている。	内部・外部での研修及び日々の実践の中での職員相互の確認を通して、全ての職員は「拘束となる具体的な行為」を正しく理解している。立地上の問題で施錠はしているが、利用者の意向等必要な場合は職員が同行して出かけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、年間の勉強会等でも他の職員にも周知を図っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、後見制度を活用する際には支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学の際に施設内の説明やユニット内の雰囲気等を感じてもらい、本人及び家族の不安を解消し、理解を得られるように務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情窓口を設置し、掲示している。	利用料の支払いは原則的に持参とし、利用者との面会や職員とのコミュニケーションの機会を確保している。家族等からの意見・要望が電話でされることもあり、それらを運営に反映させている。家族会の開催も検討中である。また外部者への意見・要望の表明については、契約時に文書で説明をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループ会議の内容をリーダー会議に持ち上げ、広く情報を共有できるように努めている。	職員は制限なく随時意見・提案を出すことができ、多彩なイベントの実施などにつながっている。また、利用者の動きに合わせての手すり等の増設についても職員の提案により実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や頑張りを把握し、やりがいを感じる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する研修や勉強会への参加を随時行える環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設等と情報交換や交流する機会を持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さんの意見を尊重し、安心していただける関係作りに努めている。また、家族にも意見を聞き、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際に可能な限り、家族の不安や困っていることは何かを把握しながら関係作りに努め、サービス開始まで、常に情報交換を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意見や状態を伺いながら、必要と思われるサービスを提案し、他職種と連携を取れる準備も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、一つの家族のような関係性を築いていけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な状態の報告や色々な事を家族と相談しながら本人にとってより良い支援につながるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出等で関係が途切れない支援を行っているが、コロナの関係で現状は難しい。	家族等と利用者の面会は特別な場合を除きできない状況にある。家族等の訪問時には対策を講じた上で、職員が写真等を用いて日頃の様子を詳しく伝えるようにしている。馴染みの人との関係継続に電話の果たす役割が大きいという現状にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切にし、他者との関わりを持つように努めている。また、本人に役割を持ってもらえるように努め、互いに支え合える関係性を作る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も可能な限り、関係性を維持し、今後も状況に応じて相談や支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を大切にし、意思表示が難しい場合は家族に以前の暮らし方等を聞くように努めている。	利用者の思いや意向を表しやすいように、問い掛けには選択肢を用意する等の工夫をして把握に努め、困難な場合は、家族等からの情報や職員の気づきを共有し、本人の視点に立て検討しながら利用者一人ひとりのその人らしい暮らしの継続を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や以前の暮らし方と生活環境やサービス利用の経過の把握に努めている。また、趣味や特技等の把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や残存機能を把握し、その人にあった暮らし方を日々、考え、趣味や特技を生かせる環境を整えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や身体の状態を把握し、家族の意向、スタッフからの意見を聞きながら、その人らしく生活を過ごせるように介護計画を作成している。	本人・家族等からの聞き取りやかかりつけ医・看護師等必要な関係者及び職員間での話し合いの中から課題を抽出し、無理なく段階を踏んでの課題解決を目指す介護計画を作成している。それぞれの意見やアイデアを活かした現状に即した介護計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の様子を記録し、スタッフ間で情報を共有している。また、業務中でも常に情報の共有を図る様に声かけを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を判断し、他部署とも連携を図り、できる限りの支援を行うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの馴染みの地域で過ごせるように家族の協力も得ながら、支援に努めているが、馴染みの場所に出かける等はコロナ禍の現状では難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医がある方は、関係を継続していただく事もでき、新たに入居と同時に協力医療機関に変更される場合は支援を行っている。	かかりつけ医の選定は本人及び家族等が行い、往診又は看護師が同行しての受診である。情報提供は、往診の際は利用者の日々の記録をもとに職員が口頭で行い、受診時は看護師が説明をしている。かかりつけ医と看護師が密に連携することで適切な医療が受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化を常に把握し、変化等あれば看護師に報告し、情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院関係者と情報交換を行い、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しているが、状態の変化とともに再度、家族と話し合いを行い、方針を共有し、支援します。	契約時及び段階毎に、本人・家族等とかかりつけ医・看護師が話し合い、方針を確認し共有している。入院又は事業所での看取りの選択は本人・家族等により、看取りの希望があれば職員はかかりつけ医・看護師の指示を受けマニュアルに基づいてのターミナルケアにあたっている。昨年度は1名の利用者の看取り実施があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やその都度に説明し、初期対応を行っている。夜間はオンコール体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と施設内の勉強会を用いて随時、避難方法や連絡体制の確認を行っている。	年2回の訓練のうち1回は消防の立ち会いがあり終了後講評を受けている。マニュアルに則り利用者と職員と一緒に参加し、昼間または夜間想定訓練である。必要物品の備蓄にも怠りはないが、今後の見通しとして地域の消防団との協力体制を視野に入れている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人権を尊重し、声かけなどは常に職員同士で意識し、施設内での勉強会でも確認している。	利用者の呼称は、姓で行っている。排泄や入浴等の場面では本人の意向を尊重し、希望により同姓介助での対応である。利用者の個人情報については、鍵のかかるロッカーに保管する等責任ある取扱いをし、管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ご自身に選択してもらえるように、声かけや選択方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者優先を常に心がけ、スタッフ同士互いに協力できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から着られている着衣や、好きな物を持ってきていただいている。また、生活の中で必要な物があれば、家族に連絡し、相談している。散髪については希望時に訪問理容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も利用者と一緒に食べ、お互いに感想を言ったり、一緒にお皿などの片付けをしている。	業者による調理品の利用が基本であるが、利用者の誕生日には事業所で赤飯を炊く等適宜利用者の好みを活かしたメニューに変更しており、取り寄せたお寿司が食卓に並ぶこともある。利用者と職員はテーブルを囲んで同じ物を食べることから、味付け等の出来具合を評価しながらの賑やかな楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックし、食べる様子なども常に観察し、声かけや介助を行い、その方に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は声かけを行い、出来る範囲内はご自分でしていただき、介助が必要な方は介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを一人ひとり把握し、訴え時には都度、もしくは誘導を行っている。また、職員同士の情報の共有を行っている。	排泄チェック表を目安にするが、利用者から出されるサインに職員は注意を払いながら、トイレでの排泄につなげている。現在おむつ使用の利用者はいない。昼間はほぼ自立し、夜間はリハビリパンツを使用している数名の利用者もいる。職員は、トイレでの排泄や排泄の自立にむけて利用者一人ひとりへの支援を続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のレクリエーションでの体操や施設内の散歩を行うとともに、排便間隔を把握し、対応している。また、受診時には主治医に相談し、薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、好きな入浴剤の使用や、お湯の温度もその都度対応しながら、楽しく入浴できるように努めている。	入浴は寛ぎをもたらす絶好の機会であることから、拒み勝ちな利用者についても、時間をずらしたり、入浴を済ませた利用者に声掛けを依頼する等の工夫をしながら実現につなげている。ゆず湯などの季節の産品を用いた入浴は楽しさを倍加させる効果がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は状態や状況をみながら、居室にて休んでもらう時間を作ったり、夜間に良く眠れるように体操や散歩をするなど、生活リズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックは毎回処方箋を確認しながら行い、用法、用量を理解し、状態の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で役割を持ってもらえるように努め、趣味や特技を生かせる環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所への散歩やイベントでの外出、ドライブなど時間を作るようにしているが、現状はコロナの関係で控えている。	戸外での日光浴、敷地内の散歩等を日常的に行い気分転換を図っている。また洗濯物干しは利用者と職員が一緒に行っており、コロナ禍で制限された中での貴重な場面である。利用者・職員共々以前のように家族等を交えたイベントが実施できる日を心待ちにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の恐れもあるので、必要時には家族の方に持ってきてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたいと訴えがある時は、話しを聞かせて頂き、必要ならばスタッフが電話をかけ、電話の取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感が分かるような飾りつけを入居者様と一緒に作り、レクリエーション時には日付を確認している。	敷地内の花壇で育てた季節の花が彩りを添えるリビングでは、利用者が談笑したり、新聞や雑誌に見入ったりと思いいにゆったりと過ごしており、洗濯物をたたむ利用者の姿も見られる。ほとんどの利用者が日中は居室外で過ごすことが、共用空間の居心地の良さを物語っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室で過ごしたり、リビングのソファに座り、日向ぼっこをしたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使っていた家具などや使い慣れたものをご自由に持ってきていただき、配置なども相談しながら居室作りをしている。	転倒への配慮からじゅうたんを敷いた居室もあり、利用者の好みにより畳を用いることもできる。居室は内側からも施錠することができ、利用者は安全に、安心して自分らしい生活を楽しめる場となっている。職員は居室を訪れる際には、ノックをして声を掛ける等プライバシーの保護にも十分に注意が払われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に使う物などは、置く場所を決めておく事でご自分で出来る方は声かけ等で「できること」「わかること」が出来る環境作りに努めている。		